

# MediCon. 医療の最前線 2013 SEP 9

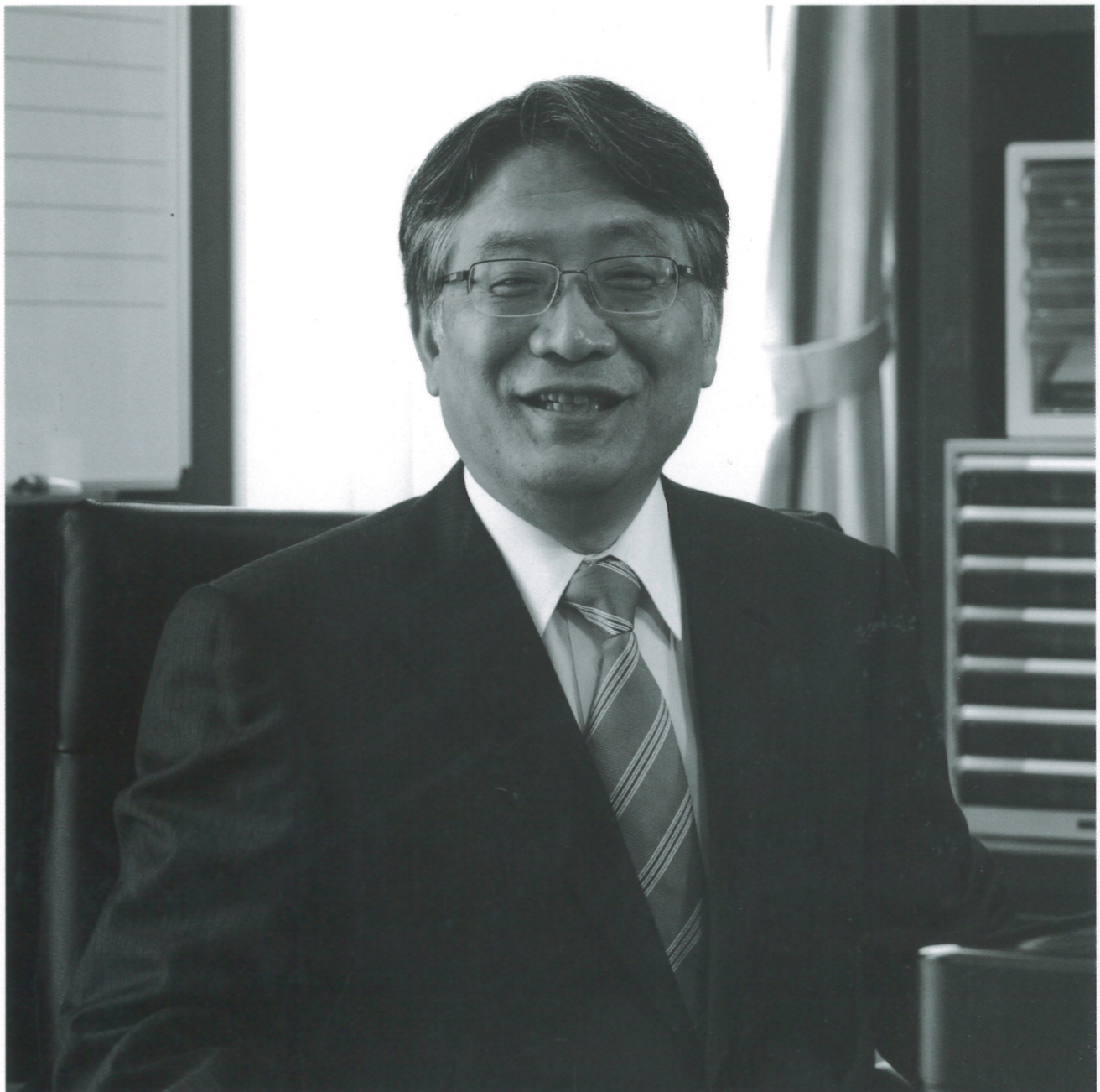
M E D I C A L C O N F I D E N T I A L

## 乳がんを全人的に診る「ブレストセンター」

移転を機に「地域密着型」の病院に再生

東京警察病院院長

白井徹郎

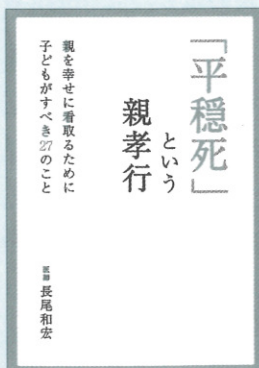


# BOOK

## ブックレビュー

### 『「平穏死」という親孝行』

タイトルそのものずばりの内容。「項目+解説」の構成で分かりやすく、リズムよく読める。事例を交えた解説は、シンプルで優しい語り口。親の死という人生の中でも大きなイベントの一つに向けて、落ち着いて準備ができるようなつくりだ。ノウハウ本として役に立つのはもちろんだが、肉親の死ということに対して正面から向き合っているため、読み物としても面白い。サブタイトルは「親を幸せに看取るために子どもがすべき27のこと」。最期の親孝行という意味でも、親に平穏な死を迎えさせることは、子としての義務でもあるかもしれない。そう考えると、この数は決して多くはないだろう。親が平穏死を迎えるための知識と方法が分かりやすく、かつ緻密に展開されており、末期がんや認知症など親の症状におけるケース別対応法にも触れているため、高齢化社会における「世話をする側」のバイブルになるといっても過言ではない良書だ。

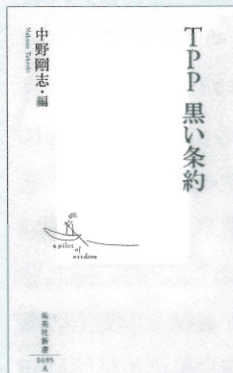


長尾和宏 /  
アース・スター エンターテイメント /  
1260円(税込み)

### 『TPP 黒い条約』

環太平洋経済連携協定(TPP)反対の論陣を張ってきた現役経済産業官僚・評論家の編著者が6人の著者と編んだ1冊。〈TPP参加の正しさではなく、国

内の対立、あるいはアメリカとの摩擦という状態から早く脱したいという焦燥感が、日本人をしてTPP交渉への参加へと駆り立てていったというわけである。TPPは国論を二分したと言われるが、本当の意味での議論など、行われてはいなかったのだ」という指摘には思わずうなずかされてしまう。医療分野を担当する筆者は村上正泰・山形大学教授。TPP参加による悪影響を国民皆保険制度の形骸化、薬価高騰の

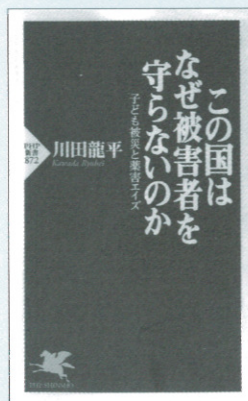


中野剛志・編 / 集英社新書 /  
798円(税込み)

危険性、知的財産権保護や混合診療解禁、営利企業参入の弊害といったキーワードで斬る。〈新自由主義的医療改革の推進者がTPP参加も支持〉という項目などはそのままキャッチとしても使えそうだ。〈最後の警鐘〉である本書が役目を果たすことを願う。

### 『この国はなぜ被害者を守らないのか』

患者視点での医療政策実現を目指す著者が東日本大震災を経て至った境地。「薬害」「公害」「原発事故」は全て同根というものだ。〈いまの日本に原発事故の被災者を守る法律などなかったこと〉に焦る。参議院議員でもある著者は「東京電力原子力事故により被災した子どもをはじめとする住民等の生活を守り支えるための被災者の生活支援等に関する施策の推進に関する法律」(子ども・被災者支援法)の制定に関わる。2012年6月、衆参両院全会一致で成立。だが、この本はここでハッピーエンドではない。著者は問い掛ける。〈成立から一年、国がこの法律につけた予算はいくらでしょうか?〉。答えは明確である。〈じつは「ゼロ」なのです〉。これは未来と過去をつなげる本でもある。



川田龍平 / PHP新書 /  
840円(税込み)